

ひびしん 経営内容のお知らせ

上半期ディスクロージャー誌

2020.4.1 ▶ 9.30



北九州市立 白野江植物公園の紅葉



© KSM



八幡餃子



門司港発祥 焼きカレー



豊前海一粒かき



小倉発祥 焼うどん



小倉城下の郷土食 むか炊き



博多豚骨ラーメン



福岡ひびき信用金庫



令和2年度 上半期の業績について

1 事業概況

令和2年度におけるわが国経済は新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が大きく制限され、多大なダメージを受けました。行政の多岐に亘る施策や事業者の自助努力により何とか踏みとどまり、政府は9月の月例経済報告で「景気は新型コロナウイルスの影響で厳しい状況にあるが、持ち直しの動きを見せている」としています。しかし、欧米では感染者が増加傾向にあるなど感染症は未だ終息を見せず、国内でも個人消費や設備投資は依然として停滞感が強く、経済の本格的な回復は道半ばです。

現3カ年経営計画「“Change Challenge Create ～100年金庫に向けて～”」も残すところ半年を切りました。そして、来期からは新3カ年経営計画がスタートします。

このような環境のもと、令和2年上期は営業活動に制約が強られる中で、とりわけお客様の資金繰り支援に力を入れて活動して参りました。コロナ関連融資を背景に業容面は拡大し、事業承継支援につきましては当金庫お取引先同士のM&Aが成約となるなど、金融機関に求められる本来の業務面において、一定の成果を上げつつあり、今後も引続き金融仲介機能の質の向上に務めてまいります。

令和2年度の上期業績については、以下のとおりとなっております。

2 業績

預金の状況

預金積金については、上期預金キャンペーンとして、県下の花農家に対する支援事業と連携し“花あふれる定期預金”を販売、72億1千万円獲得することができました。また、政府が実施する各種新型コロナウイルス感染症対策の受け皿口座として多くのお客様にご指定頂きました。この結果、預金積金の9月末残高は、対前年同月比621億70百万円増加の7,722億70百万円となりました。

貸出金の状況

貸出金については、コロナ禍においてお客様の資金繰り支援に特に力を入れて活動した結果、事業性融資では新規事業所先816先を開拓し83億5千4百万円を獲得することができました。また、個人向けの貸出については消費者ローンを1,440件の25億1千2百万円獲得することができました。

この結果、貸出金の9月末残高は、対前年同月比323億円48百万円増加の3,843億94百万円となりました。

収益の状況

収益面では、新型コロナウイルス感染症関連融資により、事業性融資及び消費者ローンが伸長した結果、貸出金利息は対前年同月比83百万円の増加となりました。有価証券運用につきましては、前年度と同様にリスクとリターンのバランスに配慮した運用を行い、有価証券利息配当金が対前年同月比2億51百万円減少しました。その結果、業務収益は減少しました。

しかし、株式等売却益や金銭の信託運用益が増加するなど臨時収益が増加したことで、経常収益は対前年同月比23億67百万円増加の89億37百万円となりました。

一方、費用面では、資金調達費用の大半である預金利息が対前年同月比で3百万円減少、経費については新型コロナウイルスの影響により各種イベントや行事が中止となったこともあり人件費、物件費ともに減少しました。しかし、国債等債券売却損及び償還損が増加したことで、業務費用は増加しました。

貸倒引当金繰入額や株式等売却損などの臨時費用も増加したため、経常費用は対前年同月比19億12百万円増加の77億50百万円となりました。

以上の結果、経常利益は対前年同月比4億55百万円増加の11億87百万円となりました。

令和2年度 上半期の業績 (計数)

以下に掲載している諸計数等は、当金庫へのご理解を深めていただくために任意に開示しているものであり、会計監査人の監査は受けておりません。

また、各計数につきましては、単位未満を切り捨てて表示しております。

預金・貸出金の状況

令和2年9月期の預金積金残高は、7,722億円となりました。また、令和2年9月期の貸出金残高は、3,843億円となりました。

■預金積金残高

(単位：百万円)

	令和2年3月期	令和2年9月期
預 金 積 金 残 高	694,838	772,270
流動性預金	369,379	431,672
定期性預金	325,363	340,502
その他の預金	95	95

■貸出金残高

(単位：百万円)

	令和2年3月期	令和2年9月期
貸 出 金 残 高	352,734	384,394
割引手形	4,491	2,630
手形貸付	28,990	23,909
証書貸付	301,162	340,736
当座貸越	18,090	17,117

■業種別貸出金残高

(単位：百万円)

	令和2年3月期			令和2年9月期		
	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)	貸出先数	貸出金残高	構成比(%)
製 造 業	517	17,496	5.0	523	19,781	5.1
農 業 / 林 業	12	56	0.0	12	56	0.0
漁 業	3	1	0.0	1	0	0.0
鉱業 / 採石業 / 砂利採取業	5	407	0.1	4	318	0.1
建 設 業	1,744	35,733	10.1	1,841	44,305	11.5
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1,171	0.3	3	1,277	0.3
情 報 通 信 業	71	614	0.2	73	792	0.2
運 輸 業 / 郵 便 業	155	8,422	2.4	159	9,848	2.6
卸 売 業 / 小 売 業	1,211	27,323	7.7	1,243	32,790	8.5
金 融 業 / 保 険 業	57	12,264	3.5	52	10,247	2.7
不 動 産 業	870	66,126	18.7	891	72,607	18.9
物 品 賃 貸 業	30	1,830	0.5	33	2,160	0.6
学術研究 / 専門・技術サービス業	228	2,138	0.6	246	2,555	0.7
宿 泊 業	10	699	0.2	14	1,074	0.3
飲 食 業	556	4,624	1.3	715	7,493	1.9
生活関連サービス業 / 娯楽業	332	3,902	1.1	389	4,789	1.2
教 育 / 学 習 支 援 業	53	1,638	0.5	63	1,914	0.5
医 療 / 福 祉	325	12,324	3.5	355	13,333	3.5
そ の 他 の サ ー ビ ス	493	8,191	2.3	537	10,696	2.8
地 方 公 共 団 体	12	12,738	3.6	12	14,127	3.7
個 人	23,377	135,026	38.3	22,467	134,222	34.9
合 計	30,064	352,734	100.0	29,633	384,394	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

損益の状況

健全な経営を維持し、地域のお客様の信頼に常に応えていける体制を整えるため、経営体質の強化に努めています。上期は増収増益となったものの、業務純益は△502百万円となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、当金庫の貸出先の業況悪化や倒産に備えて、引当金を積極的に積み増したことが要因です。金庫の健全性を保ちながら、地域への円滑な資金供給を可能にするために前向き(フォワードルッキング)な対応を行いました。

■損益の状況

(単位：百万円)

	令和1年9月期	令和2年9月期
経常収益	6,569	8,937
経常費用	5,838	7,750
業務純益	1,567	△502
コア業務純益	1,238	1,119
コア業務純益(除く投資信託解約損益)	1,069	915
経常利益	731	1,187
税引前当期純利益	728	965
当期純利益	519	871

有価証券の状況

当金庫では主に国内の債券を中心に有価証券運用を行っており、令和2年9月期の評価損益は3,890百万円となっております。

■有価証券の状況

(単位：百万円)

	令和2年3月期				令和2年9月期			
	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損
株式	10,323	△824	928	1,753	10,608	833	1,379	545
債券	103,015	2,353	2,843	490	123,801	1,810	2,670	859
その他	119,717	△7,012	1,460	8,472	123,557	1,245	3,881	2,635
合計	233,056	△5,483	5,232	10,716	257,967	3,890	7,930	4,040

(注) 1. 上記の「その他」とは外国証券及び投資信託等です。

2. 評価損益には帳簿価額(償却原価)と時価との差額を計上しております。

不良債権の状況

金融再生法開示債権による不良債権比率は2.96%となりました。不良債権に対しては十分な引当を実施しており、内部留保とあわせて備えは万全です。

■金融再生法上の不良債権残高

(単位：百万円)

	令和2年3月期	令和2年9月期					
	開示残高	開示残高(a)	保全額(b)	担保・保証等による回収見込額(c)	貸倒引当金(d)	保全率(b/a)	引当率d/(a-c)
金融再生法上の不良債権(A)	11,104	11,438	10,187	7,572	2,615	89.06%	67.64%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	3,555	3,194	3,194	2,376	817	100.00%	100.00%
危険債権	6,071	6,794	5,973	4,570	1,403	87.91%	63.08%
要管理債権	1,478	1,449	1,020	625	394	70.38%	47.89%
正常債権	342,842	374,316					
合計(B)	353,947	385,754					
不良債権比率(A)/(B)	3.13%	2.96%					

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻の状態に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。

3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。

4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

自己資本の状況

当金庫の令和2年9月期の自己資本比率は、国内基準の4%を大幅に上回っており、経営の健全性を維持しております。

■単体自己資本比率

(単位：百万円)

項 目	令和2年3月期	令和2年9月期
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	48,297	49,847
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	47,036	47,928
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,058	1,716
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	202	202
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	177	267
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）の額の合計額	177	267
自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	48,119	49,579
信用リスク・アセットの額の合計額	407,244	426,728
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	0	0
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	0	0
うち、上記以外に該当するものの額	0	0
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	18,476	18,476
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	425,721	445,205
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	11.30%	11.13%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた告示の改正に伴う新しい自己資本規制に基づき算出しています。
なお、当金庫は国内基準を採用しております。

出資金及び会員数の状況

信用金庫は、営業地域内の中小企業や住民の方々を会員とした協同組織の地域金融機関です。地域の皆さまからお預かりしたご預金等をもとに、会員の方はもちろん地域の皆さまに広くご融資しております。信用金庫は地域の中小企業や住民の皆さまに安定した資金を提供することで、地域の再生・活性化を図ることを使命としております。

■出資金および会員数

	令和2年3月期	令和2年9月期
出 資 金 残 高 (百万円)	3,452	3,445
会 員 数 (人)	72,668	72,872